

VI. 整備・管理内容

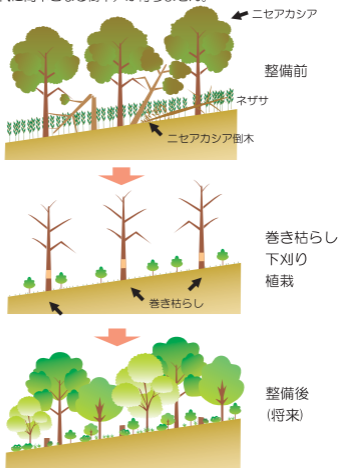
目標とする樹林へ誘導する整備・管理

現状では概ね樹林等が形成されていますが、土砂災害防止上の観点から問題のある植生については、積極的に林相転換、補植などの整備を行い、継続的に撫育等を実施します。

群落別の整備

●ニセアカシア群落

ニセアカシアは根が浅く広がるため倒れやすく、また、ネザサが生い茂っているため、次世代を担う後継樹（次の世代に高木となる樹木）が育ちません。



ニセアカシアは繁殖力が強く、伐採しても萌芽再生するため伐採せず、巻き枯らしを行います。

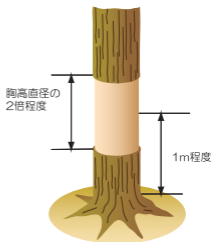


萌芽再生している様子

*巻き枯らしとは・・・

巻き枯らしとは樹木を枯死させるために樹皮を剥がす方法で、環状剥皮とも呼ばれています。

地上1mぐらいの位置で、樹皮を剥がします。樹皮を剥がす幅は胸高直径の2倍程度です。

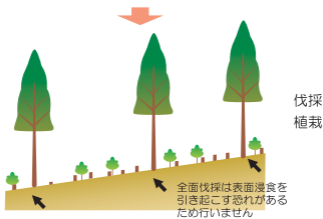
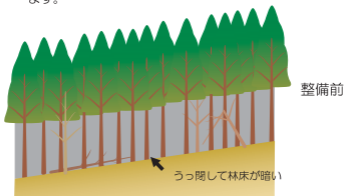


VI

整備・管理内容

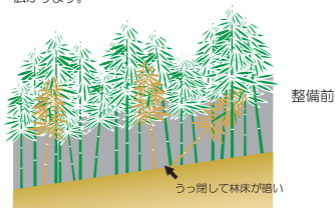
●スギ・ヒノキ群落

スギ、ヒノキの人工林は、手入れを行わないと林の中が暗くなり、下層植生が発達せず土砂流出が起こりやすくなります。



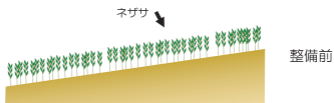
●モウソウチクーマダケ群落

林床が暗く、後継樹が育ちません。放置しておくと周囲に広がります。



●草本群落・低木林

ネザサなどが生い茂っており、後継樹となる植物はほとんど生えていません。



整備前



下刈り
植栽

* 傾斜度35度以上の場合および有効土層厚40cm未満の場合には植栽せずに、周辺植生からの侵入に期待します。



整備後
(将来)

VI

整備・管理内容

植栽方法

●植栽樹種の選定

植栽樹種は、六甲山系に自生する樹種であることを原則とし、植栽候補樹種一覧表の中から目標とする群落・群集の列で選定します。さらに、整備対象地の植生調査結果をもとに極力多くの樹種を選定することとします。

また、単一樹種の一斉植栽は避けることとし、混交割合については偏りがないように配慮します。

●植栽材料

植栽は良好な生育の見込める苗木植栽とします。植栽に用いる苗木は、可能な限り郷土産の種子由来のものとなります。

●植栽配置

- ・苗木の植栽間隔は2m程度とします。
- ・樹種の配植はランダムとし、規則的にならないようにします。



VI

整備・管理内容

植栽候補樹種

区分	種名	ブナ-シ ラキ群集	コナラ- アベマキ 群集	エノキ- ムクノキ 群集	ウラジロ ガシ-サ カキ群集	コジイ- カナメモ 子群集	アラカシ 群集	ウバメガ シ群集
落葉広葉樹	アカシデ	●	●					
	アベマキ	●	●					
	イヌシデ	●	●	○				
	イヌブナ	●						
	ウワミズザクラ	●	●					
	ウラジロノキ	○	●					
	エゴノキ		●					
	エノキ			●				
	カスミザクラ	○	●					
	クスギ		○					
	クマシデ	●						
	クマノミズキ			●				
	クリ		●					
	ケヤキ			●				
	コナラ	○	●					
	コハウチワカエデ	●						
	ブナ	●						
	ミズキ			●				
	ミズナラ	●						
	ムクノキ			●				
ヤマザクラ		●						
常緑広葉樹	アカガシ				●		●	
	アラカシ				○	●	●	●
	ウバメガシ							●
	ウラジロガシ				●			
	カゴノキ				●	●		●
	クスノキ						●	
	クロガネモチ					●	●	
	クロバイ					●		
	コジイ					●		
	シラカシ				●	○		
	スダジイ					●		
	ツクバネガシ				●	○		
	ナナミノキ					●	●	
	ヒメユズリハ						●	●
	モチノキ						●	●
ヤマモモ						●	●	
針葉樹	ツガ				○			
	モミ				○			

植栽優占度 1:● 各群落・群集の主な構成種
2:○ その他の構成種

参考文献

- 中西 哲・服部 保・武田義明(1982)神戸の植生, 76pp. 神戸市環境局
宮脇 昭(編)(1984)日本植生誌 近畿, 596pp. 至文堂
宮脇 昭(編)(1994)改訂新版日本植生便覧, 910pp. 至文堂

植栽木の撫育作業

○つる切り

伐採などにより林内が明るくなると、つる植物が繁茂し、植栽木の生長を阻害します。また、つるの旺盛な成長や絡みつきは、高木の衰弱・枯死を引き起こします。そのような場合には、つる切りをおこないます。



つる植物が絡みついたコナラ

○下刈り

ササ類や下草等の繁茂が著しい場合、植栽木の生長が阻害される恐れがあるため、定期的な下刈りにより改善します。とくに、ニセアカシアなど伐採した後の切り株から萌芽がよく出る樹種の場合や、植栽する前にネザサが繁茂していた場所では注意が必要です。



VI

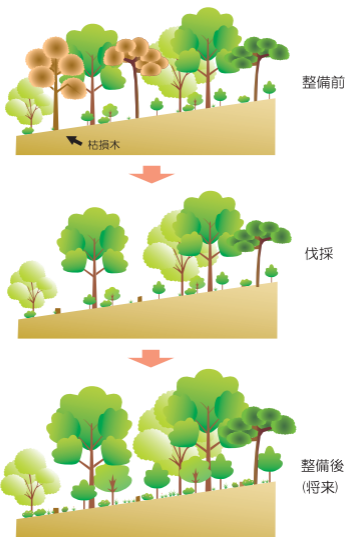
整備・管理内容

その他適性な整備・管理

現状では樹林が形成されていますが、土砂災害防止上の観点から、伐採や下刈りなどの適正な整備を行い、良好な樹林へ誘導・維持します。

● マツ枯れ・ナラ枯れ等の拡大防止を図るための整備

マツ枯れ、ナラ枯れ等の伝染病による枯損木は、薬剤処理等適切な処理を行う必要がありますので、発見次第、六甲砂防事務所へご連絡下さい。



- 草本層の発達を促し、表土流出防止を図るための整備
落葉広葉樹林において常緑樹が草本層の発達を阻害している
場合、常緑樹を伐採します。



VI
整備・管理内容

●現状の樹林を保全する管理

林床にネザサが生い茂っていると後継樹は育ちません。このような場合、ネザサの下刈りを行います。

